

## 2021年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 昭島環境フォーラム

代表者・役職名 氏名 代表 長谷川博之

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. 助成プロジェクト名

第5回多摩川流域市民学会の開催実現 と あきしま環境マップ VOL1(水田と用水路)の改訂版の作成と印刷

## 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。

会員数など。180文字程度まで)

2001年に、昭島市の環境基本計画を実行に移すために発足。これまで、昭島市を中心とした東京・多摩地域で、環境保全活動を展開してきました。昭島環境マップVOL1～4を発刊したり、多摩川流域市民学会第1～4回を実施してきました。会員数は現在9名。今後は、環境マップや学会の成果を生かした生物多様性地域戦略の市民版を策定したり、廃校を活用した自然塾での社会教育等に、実践の舞台を移す予定です。

## 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

あきしま環境マップに関しては、過去に4種類発刊し、水や緑、生きもの等、地域の自然の実態を、住民の立場で、正確に記録することを目的としてきました。今回のVOL1の改訂版制作は、最初の発行年から18年あまりが経ち、実情にあったものに作り直すことが目的でした。また、多摩川流域市民学会は、過去に4回実施してきましたが、多摩川をよりよい川にするため、市民参加、市民科学を標榜しながら、行政界や専門分野を超え、開催場所を変えながら実施してきました。今回は、「流域」をテーマに、河川管理者(行政)や大学研究者、市民等が、一同に会して、流域治水等の流域課題の共有と流域住民への啓発がねらいでした。

## 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

今回作成したあきしま環境マップVOL1(水田と用水路のマップ)の改訂版は、実情にあったマップにするため、水田が残っている所、宅地化等で消えた所、休耕田を3色に色分けし、説明文も全面的に見直しました。写真もすべて撮り直しました。地域だけでなく、広く多摩川全流域の水田や用水路に視野を広げたことが、多摩川流域市民学会のテーマや発表内容につながりました。当学会も10年ぶりの開催でしたが、コロナ禍の中、2回の延期を余儀なくされてきましたが、ようやく、オンラインで開催実施できました。今回は、「流域」の様々な課題に関わる話題が取り上げられ、河川管理者による流域治水に関する、一般市民への話題提供は初めてでした。

## 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれ

た直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

あきしま環境マップVOL1の改訂版は、朝日新聞にも取り上げられ、地元の市民や行政にも、地域の水田や用水路が激減している実態を広く知っていただくきっかけとなりました。今後、行政のまちづくりや、市民の環境意識に変化をもたらすものと考えます。多摩川流域市民学会は、オンライン実施になったため、全参加者は、28名ほどと予想していた数の半分程でしたが、「流域治水」をはじめ、放射能汚染やマイクロプラスチック汚染、多摩川全体での水田の激減等の実態が、初めて披露され、流域住民の治水意識や環境汚染意識が、これをきっかけに高まっていくものと思われれます。特に、水田の激減に関しては、単に都市農業の衰退に留まらず、水田や用水路の水害調整機能や、地下水涵養機能、ピオトープ機能などが強調されたことが、広く市民活動や自治体の施策に反映されていくものと考えます。

## 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

あきしま環境マップは、今回の水田と用水路のマップのVOL1だけでなく、湧水や地下水のマップのVOL2、緑のマップのVOL3、生きもの(特に希少種や外来種)のマップのVOL4のどれも、作成だけでは終わらない面を持っています。今後は、各マップの中に盛り込まれた環境の実情や変化を、総合的に意識しながら、日々の生活の中で、水や緑や生きものの実態が、市民の関心や活動を呼び起こすことを期待しています。

多摩川流域市民学会は、今回はオンラインだけの開催になったため、参加出来なかった方が多く、フィールドワークも実施できませんでした。今後は、学会に参加出来なかった方への配慮や不十分な面を補填し、学会で取り上げられた流域課題を積極的に共有できるよう、アフターケアに勤めていきます。録画画像の配信や学会報告書もできるだけ早く作成する予定です。

## 7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

\* あきしま環境マップ VOL1改訂版(成果物)

および朝日新聞掲載記事

\* 多摩川流域市民学会の日時修正ポスター、レジメ(要旨集)、各発表者のパワーポイントファイルの印刷物

および学会告知記事(アサコ)《前回第4回当学会の報告集は、昨年度の助成報告で提出済み》

\* 上記2つのテーマに関わる活動の様子を示した写真(別途、メールでも添付)



# 第5回 多摩川流域市民学会

# 流域から多摩川を考えよう

2022年 3月6日(日)

13~17時(開場12時) 会場ではマスク着用をお願いします  
オンラインでも配信します

## 府中市郷土の森博物館会議室

東京都府中市南町6-32

(武蔵野線・南武線、府中本町駅から徒歩20分、京王線・南武線、分倍河原駅より徒歩20分)



### 基調講演

多摩川流域の自然-その特色と課題-  
小泉武栄(東京学芸大名誉教授)

一般発表

1

多摩川における放射能汚染の記録  
中西四七生・古澤省吾 (たまあじさいの会)

一般発表

2

多摩川流域の水田と用水路の実態  
長谷川博之 (昭島環境フォーラム)

一般発表

3

消えゆく東京の両生類  
福山欣司 (慶応大学教授) 紙面参加

一般発表

4

洪水後の河川敷の植生回復~植物はどこからやってくるのか?  
吉川正人 (東京農工大学大学院農学研究院准教授)

一般発表

5

多摩川におけるマイクロプラスチックの問題  
伊藤教行 (NPO法人R.I.La)

### 特別発表

多摩川緊急治水対策プロジェクトについて(仮題)  
国土交通省京浜河川事務所

### プレワーク ショップ

府中郷土の森博物館周辺の府中用水と水田を歩く 西府駅集合 10から12時  
(※別紙を参照の上、別途申込み下さい)

参加費1,000円

+博物館入館料

300円

(入館料を払ってから  
会場にお越し下さい。資料代  
は会場でお支払いください)

このイベントは、真如苑の2021年度多摩地域市民活動公募助成を受けて実施します。

問合せ・申込  
学会事務局 長谷川博之  
Email hasegawa.kawasemi@gmail.com

参加をご希望の方は上記宛に、2月20日までに申し込みください。先着50名です。

- ①お名前、②住所、③年齢、④緊急連絡先(Emailか携帯番号)、
- ⑤プレワークショップ参加の有無、⑥会場参加かオンライン参加の選択

※オンライン参加の方は、事前(2月20日まで)に下記口座に参加費1000円を振り込んでください。

ゆうちょ銀行 店名008 口座番号 普通9010956 名義 昭島環境フォーラム



# あきしま環境マップ

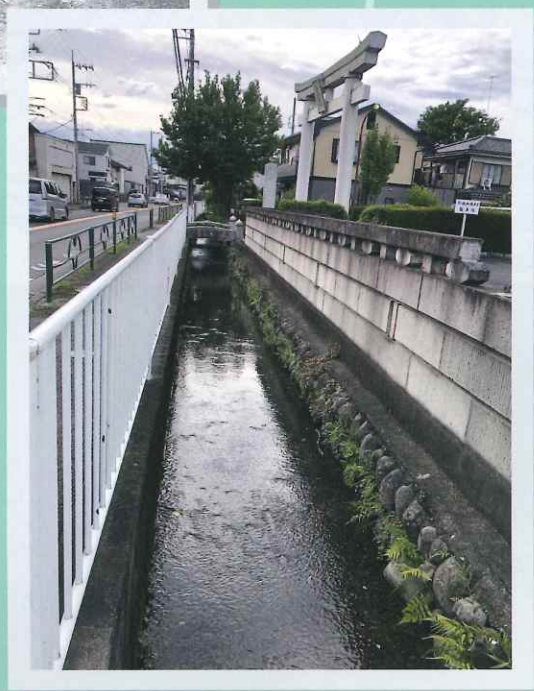
## VOL.1 水田と用水路 (改訂版)

(消えゆく水田と用水路)



### 用水の昔と今

(この用水路はどこでしょう?)



【発行】令和4年3月 【作成】昭島環境フォーラム

\*この改訂版マップは、真如苑市民活動助成金によって作成しました。

I あきしま環境マップVOL1改訂版関連 (朝日新聞2022. 4. 7)

朝日新聞 2022年(令和4年)4月7日(木) 13版 多摩 地域総合 16

## 水田6割減 驚きと危機感

### 昭島の市民団体 環境マップ改訂



昭島の市民団体「昭島環境フォーラム」が、市内の水田や用水路の現状が一目でわかる「あきしま環境マップ」(VOL.1 水田と用水路)を改訂した。2005年の刊行時から市内の水田の面積が6割近く減り、驚きと危機感を持ったためだ。

改訂版はA1判で、05年時と比べて①水田が残っている、②水田がなくなっている、③休耕田や耕作放棄地④の3色で分けて図示し、地図上に用水路やポンプ場、堀など33カ所の写真を載せた。地図の裏面で現状や課題を解説し、歴史などを紹介した。

フォーラムは01年から市内や周辺地域の自然環境を調べ、守る活動を続けている。今回はメンバー4人ほどが2021年、05年刊行のマップや住宅地図などを手に市内を歩き、水田や用水路の現状を確認。GIS(地理情報システム)を使って地図に落とした。

農林水産省の資料によれば、都内で1970年に2380haあった水田面積は、80年に743haに、2020年には124haと減り続けている。フォーラムによると、昭島市には05年には9.4haあったが、21年には4haに減った。多くは宅地化されたという。

この結果、両生類や魚類、水生昆虫など水辺の生物が減り、用水路は雑草が茂り、ごみの散乱が見られるという。水田には雨水が浸透する機能がある。市は水道水源を地下水に頼るだけに影響を与えかねない。また洪水時には水量の調整、貯留の役割も果たせなくなるという。

代表で都立高校非常勤教員の長谷川博之さん(67)は、「豊かな自然環境がないと人間も生きづらい。行政と農家、市民が一体で積極的に保全する手立てを考えなくてはいけない」と訴えている。

改訂版のマップは一部500円(税込み、送料別)。問い合わせは長谷川さんのメール(hasegawa@kzd.n.tokyo.ac.jp)へ。(高田誠)

## 水辺の生物や地下水に懸念

II 多摩川流域市民学会関連

(asacoco 告知記事2022. 2. 3)

第5回多摩川流域市民学会 プレワークショップと講演会 3月6日10時～12時(WS)、13時～17時(講演会)、府中市郷土の森博物館会議室(府中駅からバス1郷土の森正門前) 下40+オンライン▶9時半、西府駅改札外集合。16駅から講堂会場までの郷土の森まで、府中用水や水田を同館学芸員の佐藤智哉さんと歩く。300円(WSのみ参加)▶13時(開場12時)、講演会(流域から多摩川を考えよう)、東京学芸大学名誉教授の小泉武栄さんの基調講演「多摩川流域の自然—その特色と課題」他、5つの一般発表と特別発表、1000円+300円(入館料)。先着50人。①名前、②住所、③年齢、④緊急連絡先(メールか携帯番号)、⑤WS参加の有無、⑥参加は会場かオンラインかを明記し2月20日までにメールhasegawa.kawase.mil@gmail.comへ申し込む。☎090-8519-4688(会中課長 長谷川さん)